

# 所 報

## 氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8220 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail [kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp](mailto:kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp)ホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/department/Top/kyouiku-1/kyouikukenkyu>

## 教えるとは希望を語ることである (レイ・アラゴン)



「小手先の技術は時がたれば自然に身に付くし、本で仕入れることができるでしょう。しかし、その技術を生かすか生かさないかは教師と子どもとの人間関係

にあると思います。常に伸びようとする姿勢を失わず謙虚に学ぼうとする人は資格の有無に関わらず天性の教師と言えないでしょうか。」

私は、昭和57年、富山大学教育学部附属小学校3年1組で初めて教育実習を行った。これは、そのとき、教育実習録の最後のページに指導教官のH先生が書いてくださった「評にかえて」の一部である。教育実習を終えた私は、今もH先生のこの言葉をかみしめ、人間性を磨き、学び続ける教師を目指し、自己研鑽に努めている。私は、このときの教育実習を含め、堀川小学校、志貴野中学校と合計3度の教育実習を行った。今、手元には3冊の教育実習録がある。どれも私の大切な宝物である。

最初の教育実習を終え、大学3年の私は、教育実習録のまとめに「・・・不甲斐ない自分自身に腹の立つことばかりでした。しかし、こんな私でも子どもたちは、『先生』『先生』と言って親しんでくれる。これに答えられるような人間にならねばと思った。」と記している。赤面のいたりである。教職に就き38年目を迎えている私は、生徒の思いに応えることができる教師にと成長することができたのだろうか。甚だ心もとない。

先日、1年生の生徒が「叔父さんからです。」と言って1枚の名刺を差し出した。そこには、30年ほど前に担任した生徒の懐かしい名前があった。彼は、私が中学校に勤務し、初めて送り出した卒業生である。彼が東京で大学生活を送っていたとき、ちょうど私も内地留学で学ぶ機会を得、3か月間東京にいた。そのとき、「相談したいことがある。」と突然赤坂会館を訪ねてきた生徒であった。「大学には入学したが、他の大学を受け直そうかと迷っている。」という内容であ

氷見市中学校長会 会長  
氷見市立北部中学校 校長 佐原 孝信

ったと記憶している。名刺にあったアドレスにメールを送ると返信が来た。「現在、日本経済新聞政治部に勤務し、編集の仕事に携わっている。秋には、家族同伴でワシントンに赴任する。帰国したら連絡する。」とのことであった。

彼は、自分の「夢」・「目標」をみつけ、「夢」・「目標」を実現しようとしたからこそ大学生生活に疑問を覚えたのであろう。きっとその後、「夢」・「目標」を実現するために努力し続けたのであろう。名刺には、「青山のイタリアンの味は忘れられません。」との添え書きがあった。再会が非常に楽しみである。

「あなたたちには、無限の可能性がある」という言葉を耳にすることがある。私は、人は生まれた瞬間その可能性は無限であり、そのときから無限の可能性はどんどん小さくなっていくのではないかと思う。小さくなり続ける可能性。その可能性が小さくならないための歯止めが「夢」であり「実現のための努力」なのではないだろうか。

普通の教師は言わなければならないことを喋る。  
良い教師は分かりやすいように解説する。  
優れた教師は自らやってみせる。

そして、本当に偉大な教師というのは生徒の心に火をつける。

これは、アメリカの教育者ウィリアム・アーサー・ウォードの言葉である。私は、「教師とは、……。」と語ることはできない。しかし、教育には尊敬と信頼が必要だと思う。尊敬があり、信頼があるとき生徒は教師の言葉に真剣に耳を傾け、その言葉がすとんと心に落ちる。そのことが転機となり、成長の契機をつかむときがあるのではないだろうか。自身の人間力を高めることが、生徒との良好な人間関係を築くことにつながり、夢をもつ人、夢実現のために努力する人への憧れを抱かせる、言い換えれば心に火をつけることにつながるのではないだろうか。

残り少なくなった教員人生。最後まで自己研鑽に努め、希望を語る教師であり続けたい。

# 令和3年度 夏季研修会で学びを深める

「小中連携9年間のひとつくり ～9年間の学びをつなぐ、支援をつなぐ～」をテーマに、学力の向上や生徒指導の充実等を図るため、夏季研修会を実施しました。その一端を紹介します。

## ★学力向上研修会 7月27日

講師 元早稲田大学 教授 露木 和男 先生  
模擬授業：理科「釘の吊り橋（小学3年生）」

露木先生ご自身が模擬授業をしてくださり、参加した教員は釘を磁石に長くつなげていく活動に夢中になって取り組んでいました。

その後の協議会では、「子供の発想を逃さない」「先生自身も楽しみながら教材研究をする」など、授業を仕組む際の土台となることについて教えていただきました。また、「周りの子供たちや現実を変えようとする前に、自分を変えていくことが大切」など、教員としての心構えについても熱く語っていただきました。



新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、リモートで開催

## ★教育セミナー 8月18日

内容 これからの教育の在り方

講師 菊池道場 菊池 省三 先生

「児童生徒が意欲的に学習に取り組む学級づくり・授業づくり」をテーマに、ご自身の実践を数多く紹介してくださいました。「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、教師が「学級づくり・授業づくり」におけるゴールイメージを持ち、1年間の見通しを立ててアクティブ・ラーナーを育てる必要があること等、教員として目指すべき方向性を示してくださいました。



## ★グラフィックレコーディング 8月25日

内容 ノート指導や板書等に生きる文字や絵での記録方法

講師 トークグラフィッカー 山口 翔太 先生

グラフィックレコーディングの効果には、「文字、音、映像と異なり、一目で見ることで全体像が分かる」「テキストでは分かりづらい曖昧で複雑な関係性が明確になる」「発言者の表情や場の雰囲気絵や色で表すことができる」などがあり、学校においてノート指導や面談、学級会や板書等に活用できると教えていただきました。



## ★幼保小連携教育合同講演会 7月28日

演題 幼保小接続を構造化する3つのステップ  
講師 山梨県立大学 教授 阿部美穂子 先生

3つのステップとは、①全員の子供への配慮、②折に触れての個別への配慮、③特別な個人的配慮です。地域のもつ特質や環境要因が大きく影響するため、各幼稚園・保育園・小学校の実態に応じたオリジナルな内容を生み出し、いくことが大切であると教えていただきました。



## ★生徒指導研修会 8月3日

内容 通常の学級で行う特別支援教育について

講師 高岡支援学校 特別支援教育コーディネーター

発達障害のある子供にとって学びやすい環境は、どの子供にとっても学びやすい環境であること、子供の自己肯定感を高め、社会で生きていくために必要な力を育てるためには、授業の中で「できた」「分かった」という達成感を積み重ねる必要があること等を話されました。



## ★ふるさと教育研修会 8月5日

内容 市内の万葉歌碑、氷見ラボ水族館等見学

本研修会は、新規採用教員及び転入教員を対象に、郷土に対する理解を深めるとともに、教材としての活用方法を探ることを目的として、毎年実施しているものです。本年度は市立博物館や市内の万葉歌碑、ひみラボ水族館等を見学したり、「イタセンパラを守る活動」についての話を聞いたりしました。



## ★外国語教育実技研修会 8月12日

内容 新学習指導要領の下での授業改善

講師 富山大学大学院 教授 岡崎 浩幸 先生

新しい教科書を使用して行う「やり取り」の活動や評価等について多くの助言をいただきました。参加した市内中学校・義務教育学校の英語科教員及び小学校英語専科教員は、2学期につながる授業改善について具体的に考えることができました。



## 「ENGLISH セミナー2021」～プレゼンテーションの力を付けよう～

7月28日（水）に、「ENGLISH セミナー2021」を開催しました。市内小学校・義務教育学校の6年生が、「私の町～ALTにお勧めする氷見のすてき～」や「私が自慢したい日本文化」のテーマでプレゼンテーションを行いました。35名の参加者が、普段の外国語科の授業で行ったことを生かし、ジェスチャーを交えながら、堂々と自分の考えを発表しました。

また、西條中学校英語部の生徒が、モデルプレゼンテーションを披露しました。ALTによる「Which is right, A or B?」クイズもあり、参加者全員でアメリカと日本の学校生活の違いや、氷見市のALTのお気に入りのもの等について、クイズに答えたりそれぞれの考えを述べ合ったりして、楽しい時間を過ごしました。



「Japanese school lunch が好きな人」



声を合わせて「We Love HIMI!」



「We can enjoy a nice view!」

参加者からは次のような感想が届きました。

### ◆ALT クイズ

- ・アメリカの学校生活について知らなかったこともあり、参考になった。
- ・ALTの自然な英語を聞くことができてよかった。ALTの発音も分かりやすかった。

### ◆プレゼンテーション

- ・聞く人が分かりやすいように大きな声ではっきりと話すようにした。
- ・ジェスチャーを入れたことで、ただ言葉を言っているときよりも緊張しなかった。
- ・実際にALTの先生に教えてもらい、その発音に近づけるように頑張った。
- ・ジェスチャーを付けて笑顔で話している人のプレゼンテーションは分かりやすかった。
- ・やっぱり中学生は発音がすごく上手で、大きな声でとても聞きやすかった。私も来年中学生になるので、今日の中学生のように上手に発表できるようになりたい。

## 小・中学生の力作がいっぱい！！

### <氷見市児童生徒科学作品展覧会>

開催期間 9月25日（土）～26日（日）

開催会場 氷見市教育文化センター 4階ホール

今年度の児童生徒科学作品展覧会には、小・中・義務教育学校から73点の力作が集まり、350名の来場がありました。

自分が興味をもった自然事象について、粘り強く追究し、見事な成果を挙げた作品が出そろいました。審査の結果、以下の4作品が、富山県科学展覧会に出品されました。



作 品 名	学校・学年	名 前	県科学展
よく飛ぶフリスビーを作ろう！	比美乃江小学校 4年	竹 優奈	研究努力賞
かぶとむし王国をつくろう②	窪小学校 4年	辻 百英乃	研究努力賞
微生物のひみつにせまる！！	朝日丘小学校 6年	笹村 莓花	研究努力賞
電池の無限の可能性 ～非常事態に備えて～	西條中学校 1～3年	科学部 12名 代表 吉堀 良祐	研究努力賞



## 新規採用教員 — 半年を振り返って —

### 教員としての半年間を振り返って

朝日丘小学校 藤 友希子



この4月に夢だった教員となった。学生生活とは180度違い、初めてのことで、うまくいかないと感じることも多い。しかし、毎日が目まぐるしく過ぎていくなかで、子供たちと過ごせていることに嬉しさを感じている自分がいる。

その中でも、一番印象的だったことは、子供の表情がかわいくて、私が笑い始めた時に、「先生どうしたの？なにになに？気になる！」と言いながら、子供たちも笑い始め、教室全体が笑顔になっていったことである。この時、子供たちと楽しさを共有でき、子供たちとのつながりを強く感じることができた。これからも子供たちの心に寄り添い、笑顔あふれる学級づくりを目指して、学び続けていきたい。

### 子供たちの力になりたい

湖南小学校 安土 香



憧れの教職に就き、子供たちと楽しく過ごせると考えていた。しかし、想像以上の多様な職務内容に驚くと同時に、身が引き締まる思いがした。現場では分からないことも多く、悩んだこともあったが、先輩教員の姿を見ながら、必死に過ごしてきた。これまで、子供たちと接してきて、発表が苦手だった子供が発表できるようになったときの嬉しそうな表情を見たときに、「少しでも子供たちの力になりたい」と思った。今は、子供たちが少しずつ成長していく姿を見られることが、本当に嬉しい。これからも子供一人一人をしっかりと見つめ、力になれるように寄り添いながら共に成長できる教師を目指していきたい。

### 教員としての半年間を振り返って

朝日丘小学校 草田 姫香



子供の頃からの夢であった教員になり、あっという間に半年が過ぎた。

今日までを振り返ると、毎日が手探りで思いどおりに行かず、挫けそうになった時もあったが、それを忘れるくらい充実した日々だった。

1学期の終業式の日、ある子供が私に、「夏休みの間、先生に会えないのがすごく悲しい」と泣きながら話してくれた。初めて子供たちの担任となり、全力で子供たちと向き合ってきたが、正解が何か分からず悩んでいた。しかし、この言葉を聞いた時、1学期間の自分の努力が認められたように感じ、涙が込み上げてきた。それと同時に、教員としての幸せを改めて感じた。これからも子供に寄り添い、子供と共に成長し続ける教員でありたい。

### 半年を振り返り

窪小学校 佐伯 駿



私が担任している子供たちは、2年前に臨任講師として窪小学校で担任をした子供たちだ。同じ子供たちを担任させていただく運命的な巡り合わせに日々感謝をする毎日だ。4月に再び会ったときも、子供たちの成長に驚いたが、半年が経って、子供たちはさらに大きく成長したように感じる。友達同士で優しい言葉をかけ合う姿、真剣な顔で学習に取り組む姿等、子供たちの成長をたくさん見ることができた。そうした姿を見ると嬉しくなると同時に、自分自身も子供たちに負けないよう成長しなければならぬと強く思う。

これからも子供に寄り添い、子供と共に成長し続ける教師でありたい。

### 学び続ける教員を目指して

比美乃江小学校 谷内 駿介



教員として過ごし、半年が経った。学級担任として子供と接し、この子供たちが、将来どのように成長するのかと考えると、責任を感じるとともに期待と希望をもちながら、日々、活動している。

授業を進める中で子供たちの学びに驚かされることが多々ある。友達の見解から自分の考えをさらに深める子供、自分の考えと比べ新たな気づきをする子供、そういった子供たちの様子を見るたびに教員という職業の素晴らしさを感じる。子供たちは、友達との関わりで日々成長している。自分も子供たちに負けずに成長し続けられるよう、共に学び続けたい。

### たくさんの先生方に支えられて

比美乃江小学校 田子 智尋



授業中に頑張って発言をするようになったり、嫌いな食べ物を食べることができるようになったりと、どんどん成長していく1年生の姿をそばで見えてきた。しかし、上手く子供の発言を生かせず、ねらいが達成できずに落ち込むことが多々あった。そんな時にはいつも、「みんな初めはそんなものだよ」と励まし、的確なアドバイスやフォローをしてくださるたくさんの先生方に、私は支えられている。励まし支えてくださる先生方への感謝の気持ちを忘れずに、子供たちと真剣に向き合って寄り添いながら、共に成長できる教師でありたい。